

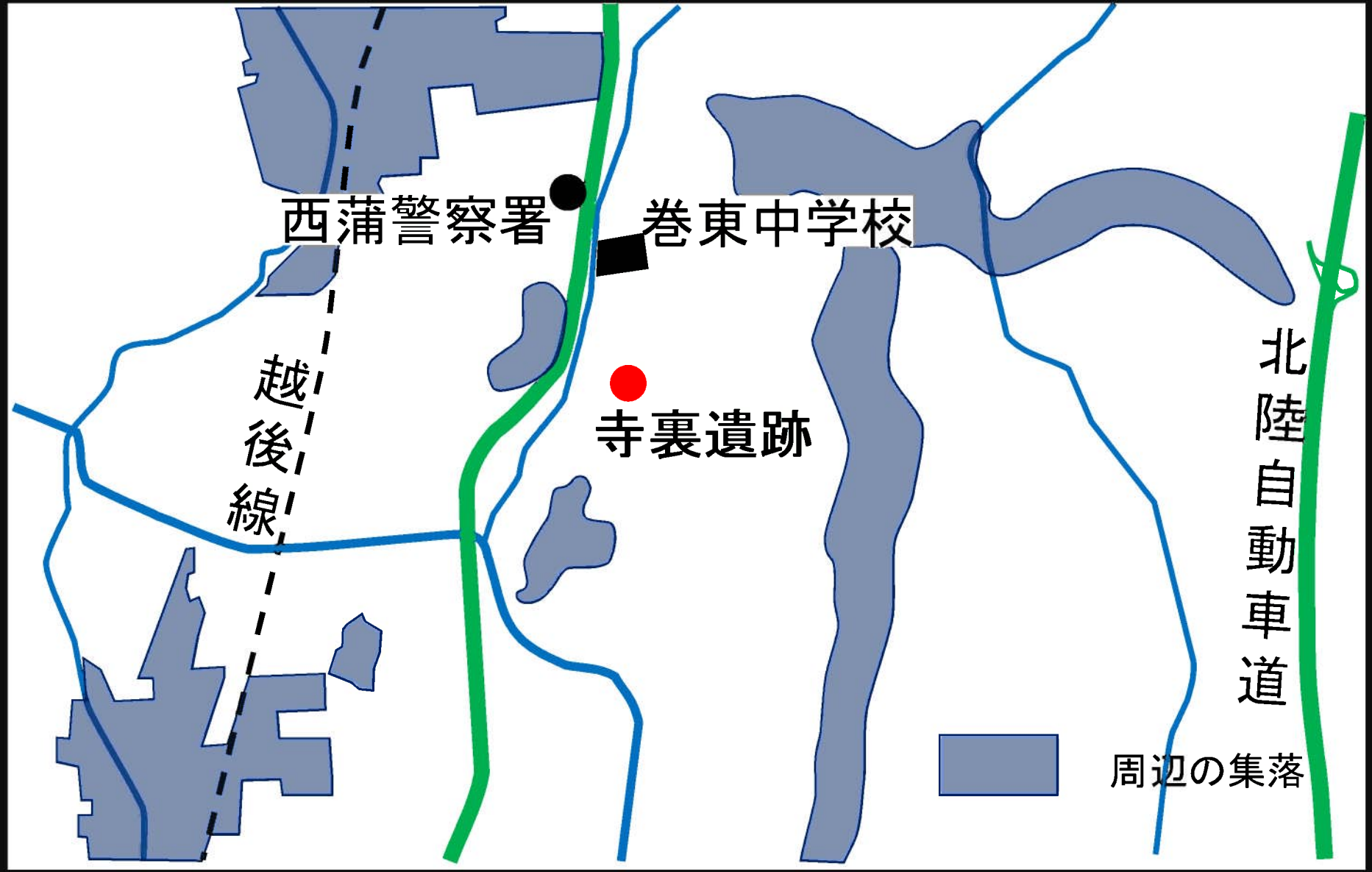
数百年前の集落と 米作りの痕跡

寺裏遺跡



寺裏遺跡の位置

116号↑新潟



寺裏遺跡周辺図

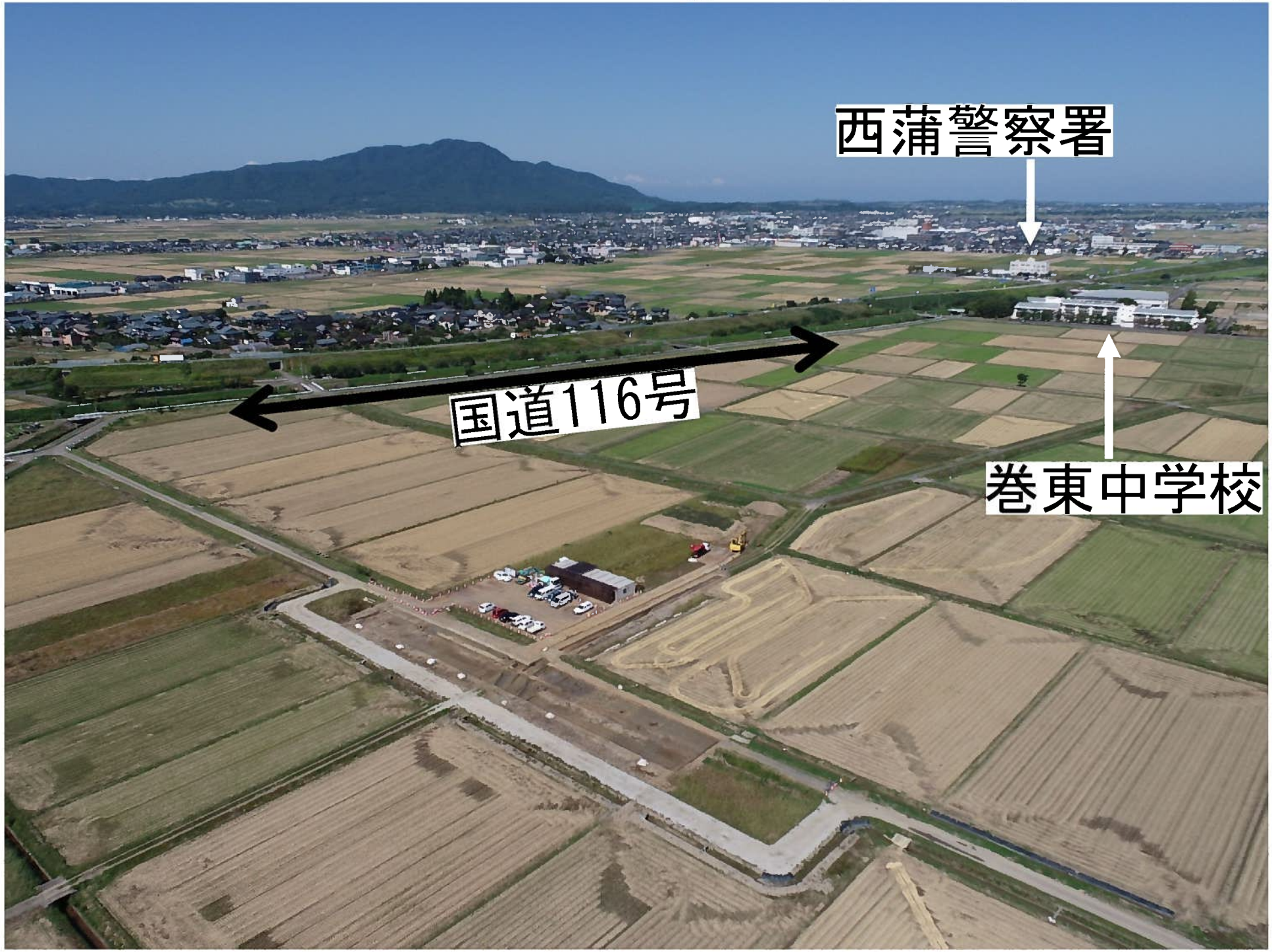
西蒲警察署



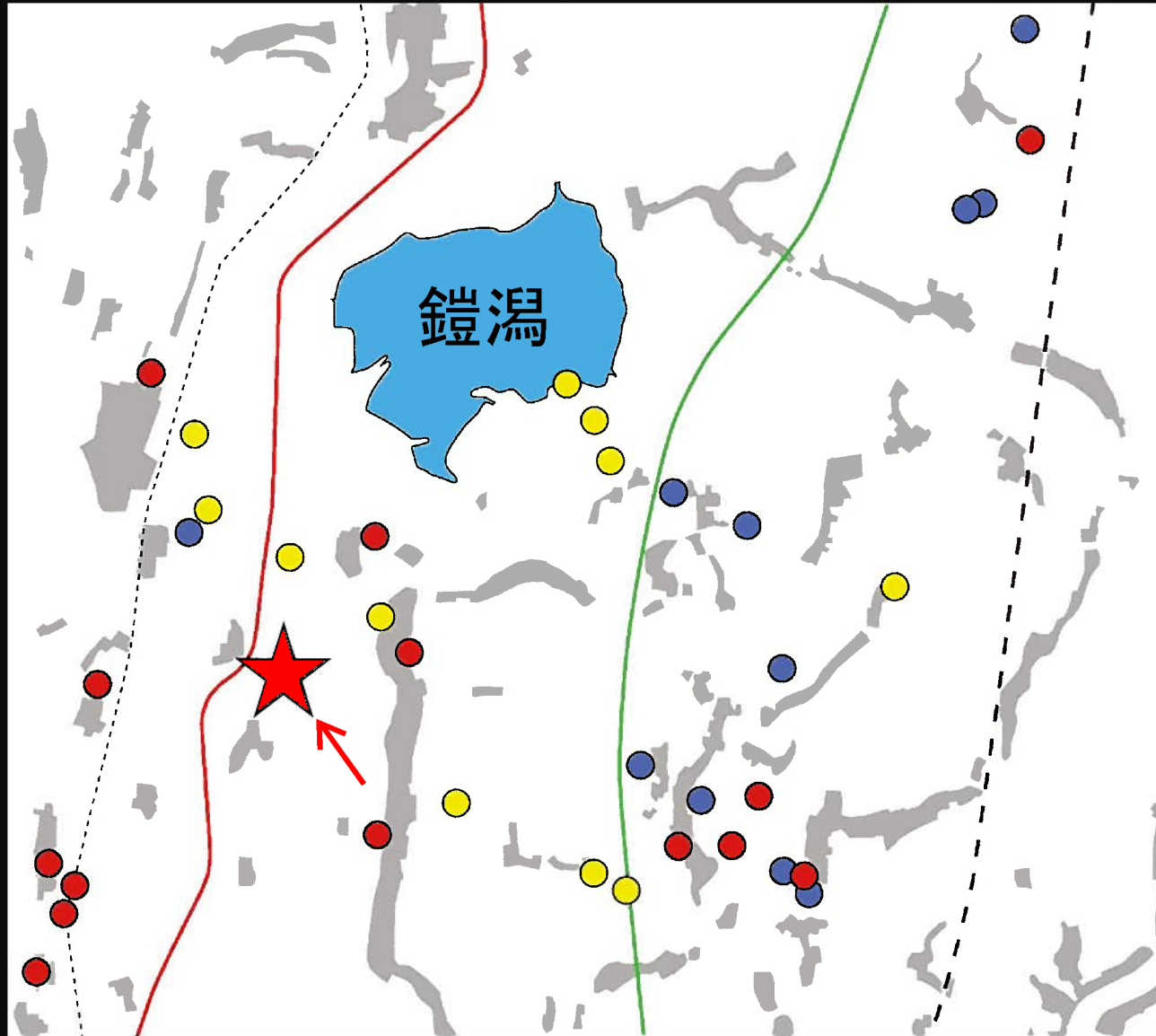
国道116号



巻東中学校



越後線 116号 高速 新幹線



★ 寺裏遺跡

● 古代
(奈良・平安)

● 中世
(鎌倉・室町)

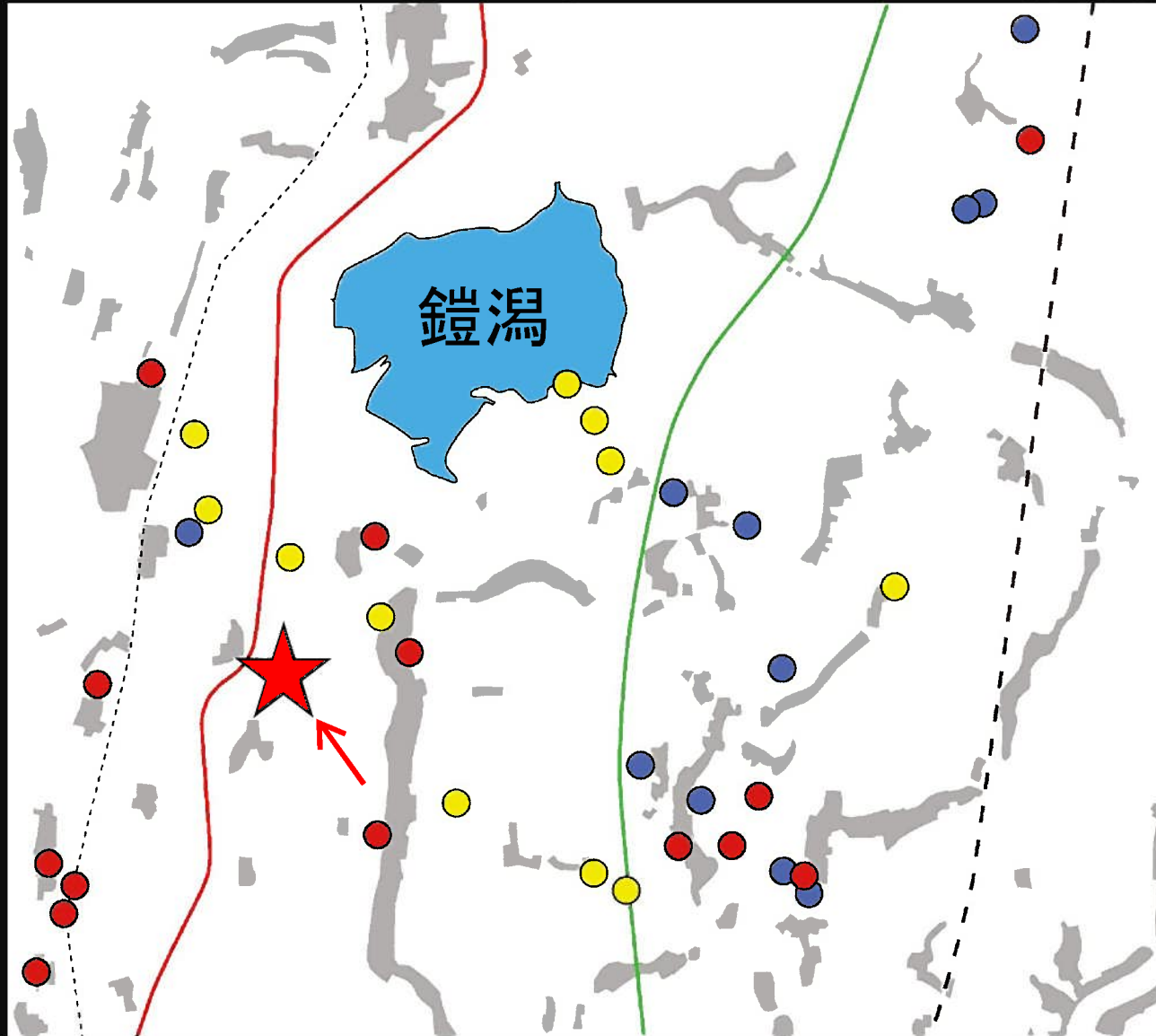
● 古代～中世

■ 自然堤防
(明治時代の宅地)

発掘調査が行われたほか、
記録の残っている
主要な遺跡のみ

寺裏遺跡周辺の遺跡

越後線 116号 高速 新幹線



★ 寺裏遺跡

● 古代
(奈良・平安)

● 中世
(鎌倉・室町)

● 古代～中世

■ 自然堤防
(明治時代の宅地)

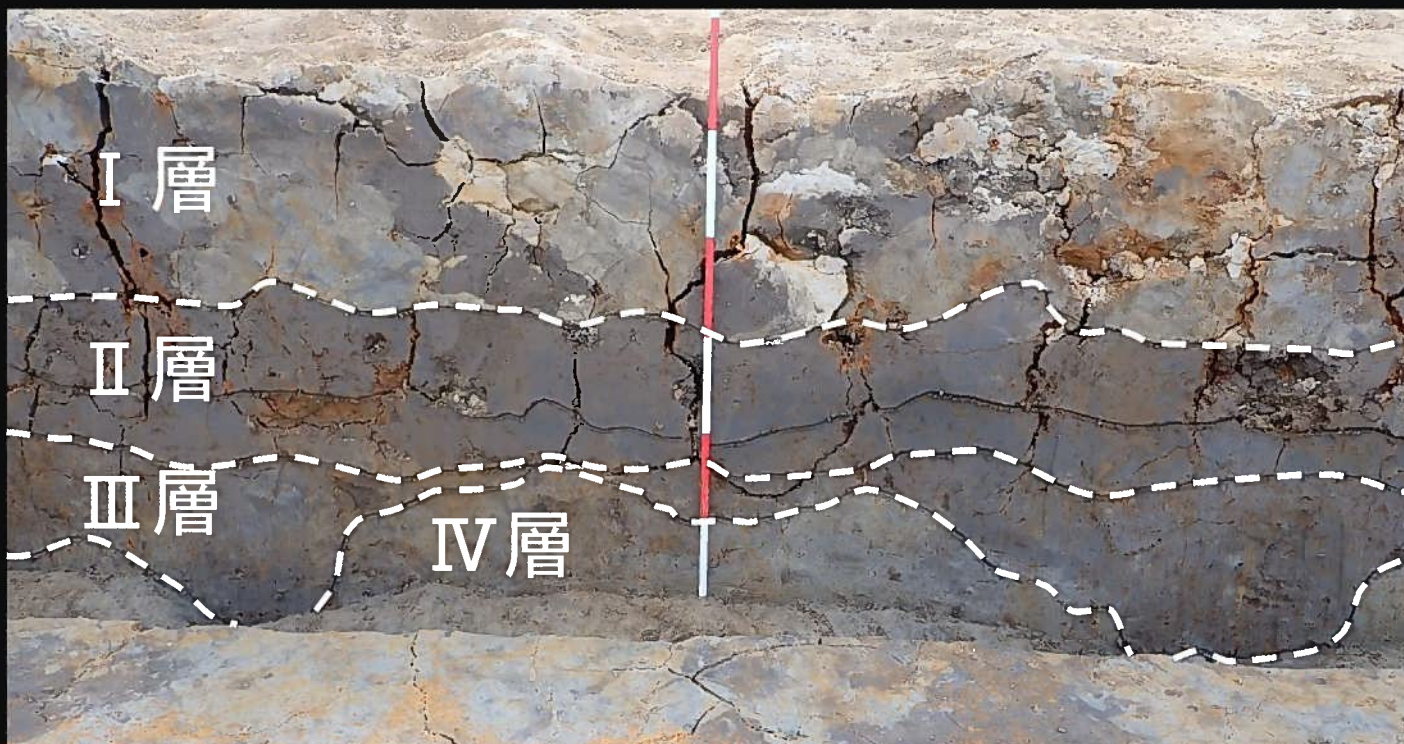
発掘調査が行われたほか、
記録の残っている
主要な遺跡のみ

寺裏遺跡周辺の遺跡

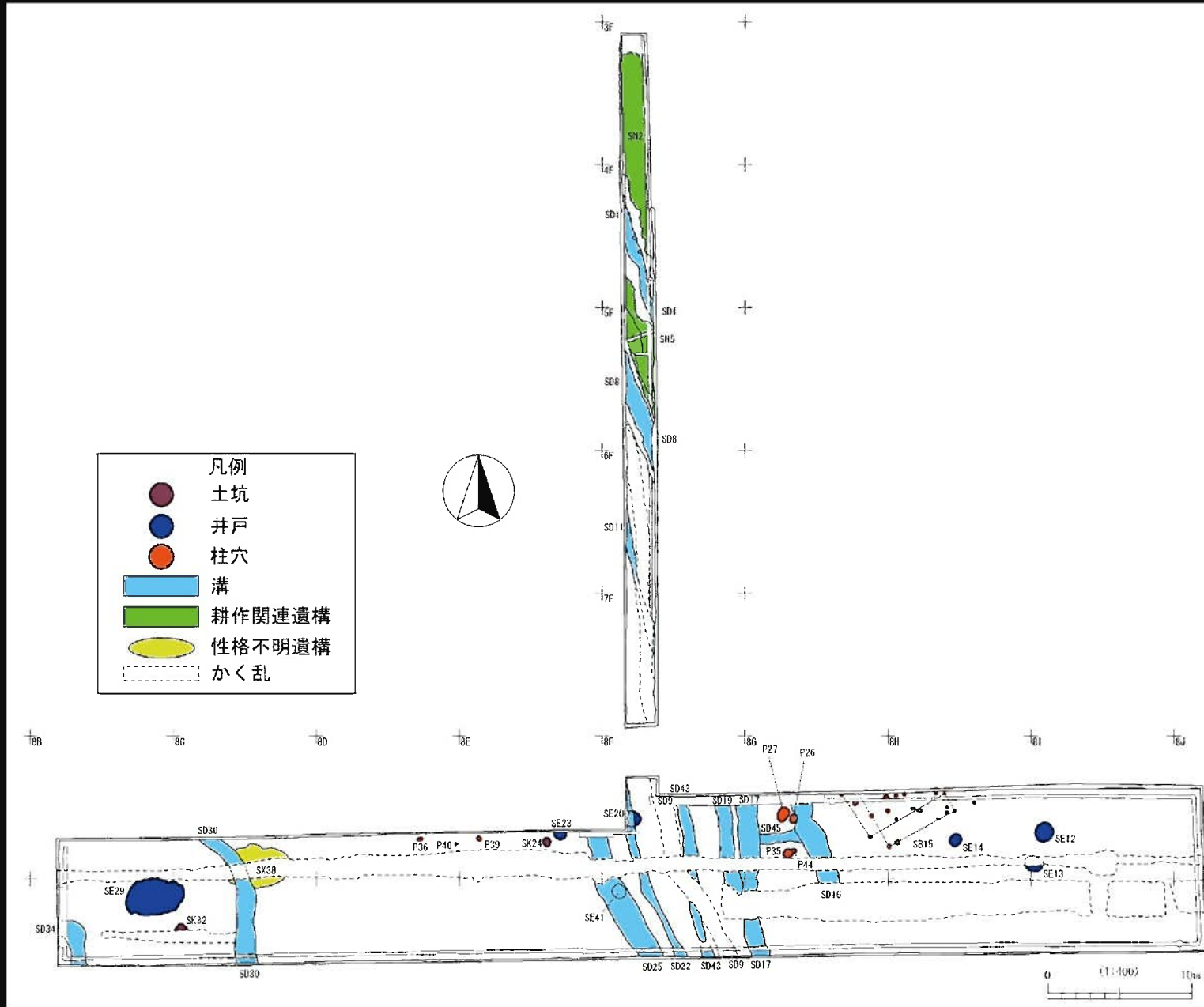




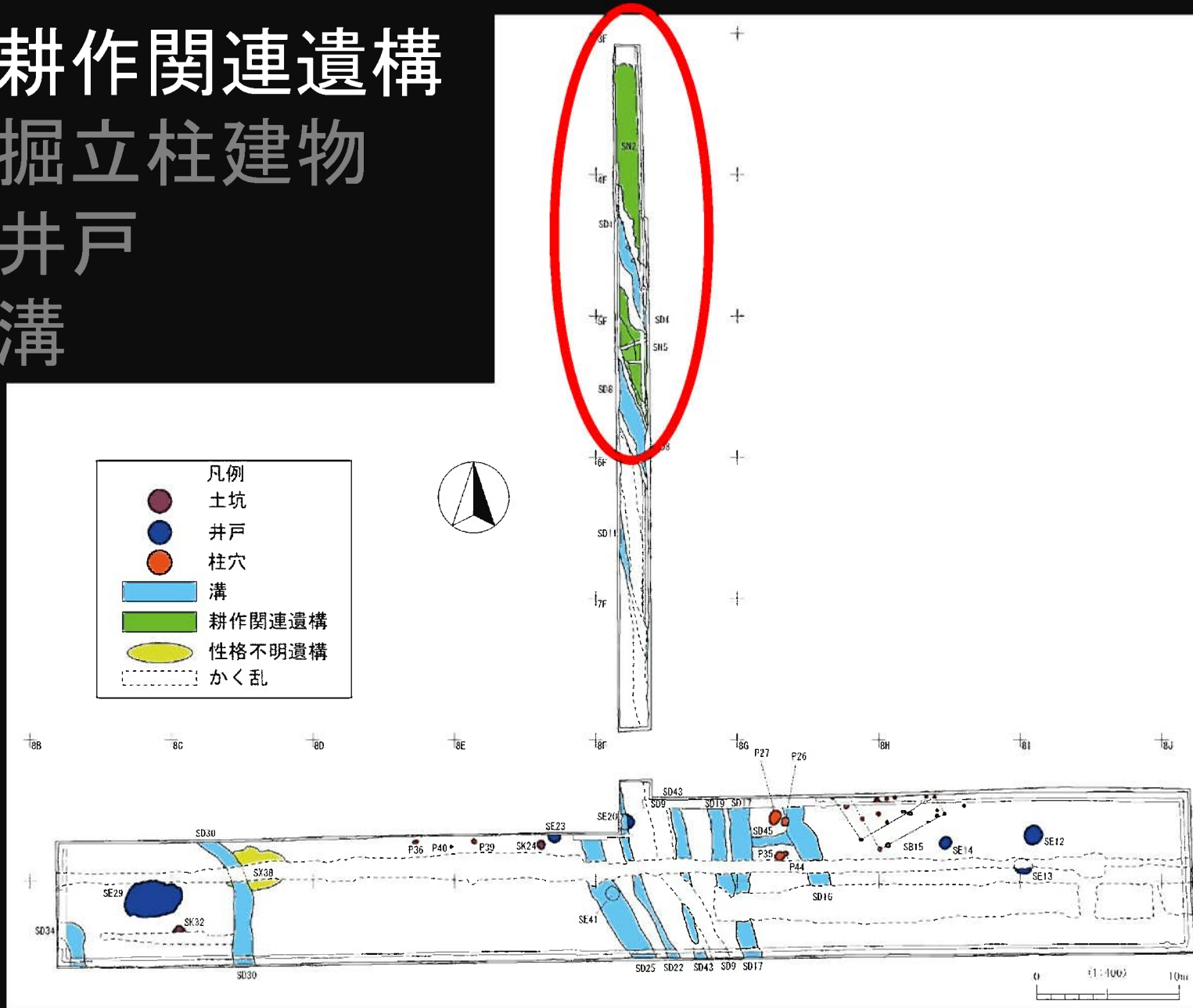
基本層序



- I 層 : 道路部分の盛土
- II 層 : 18世紀以降の水田耕作土
- III 層 : 黒褐色の遺物包含層
- IV 層 : 灰白色の地山



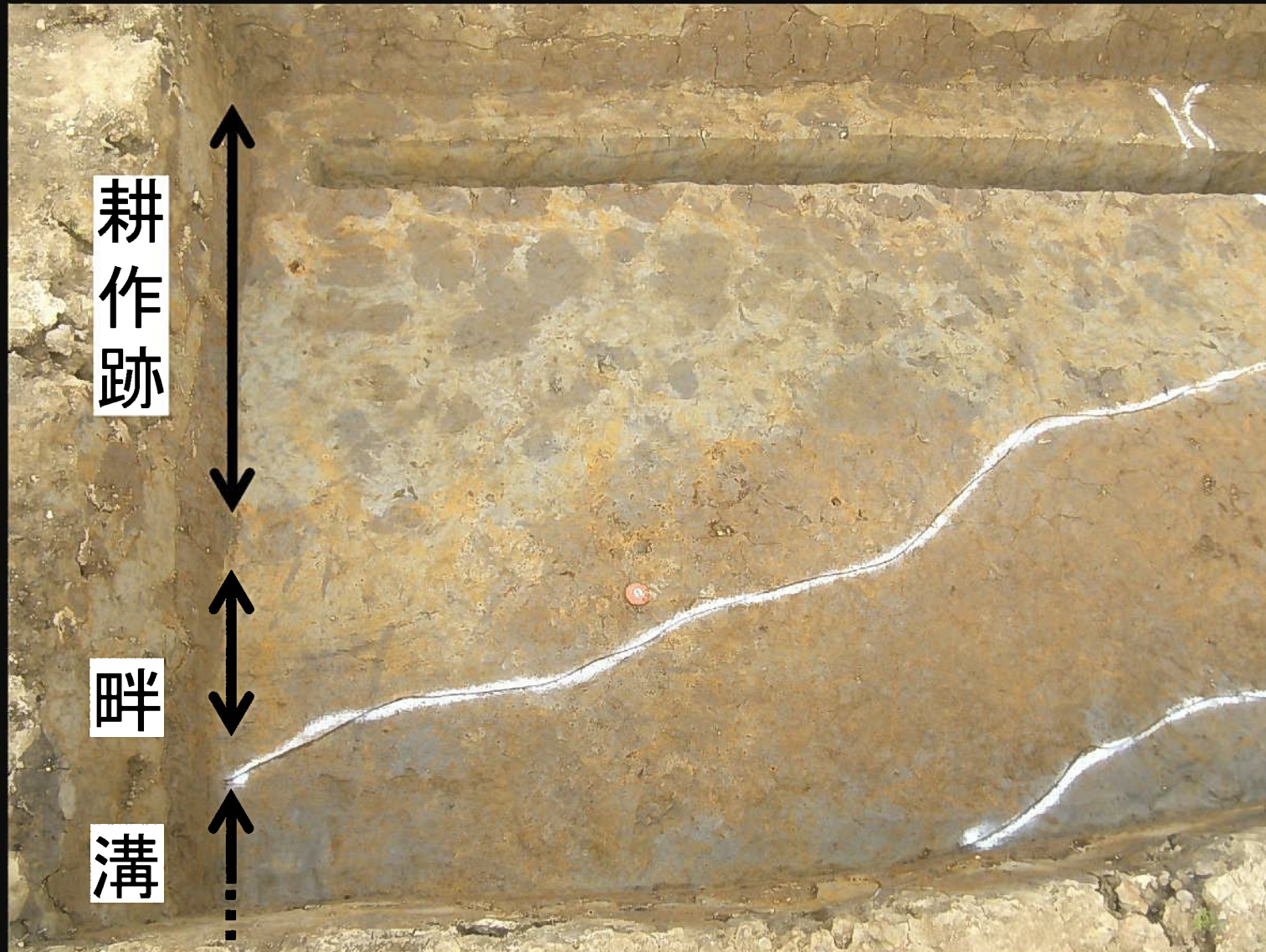
- ①耕作関連遺構
- ②掘立柱建物
- ③井戸
- ④溝

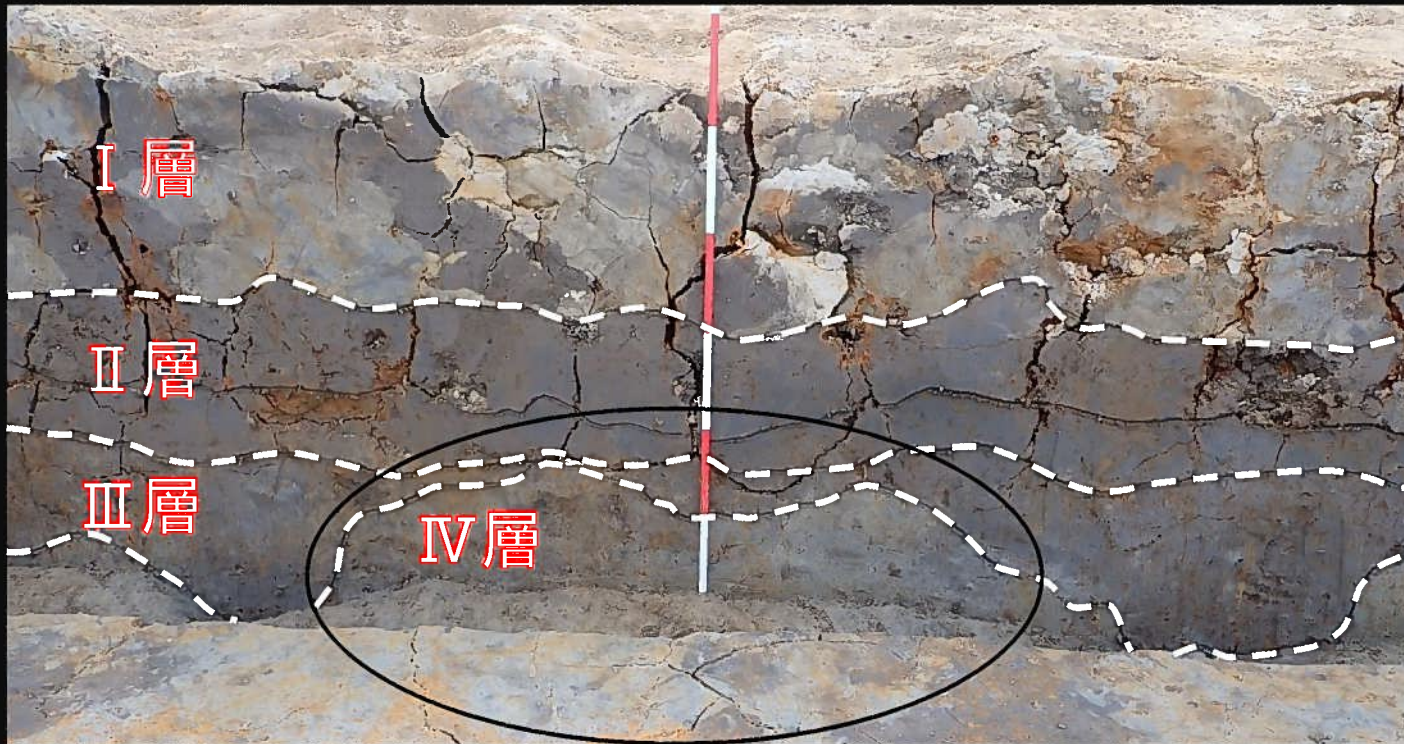


①耕作関連遺構



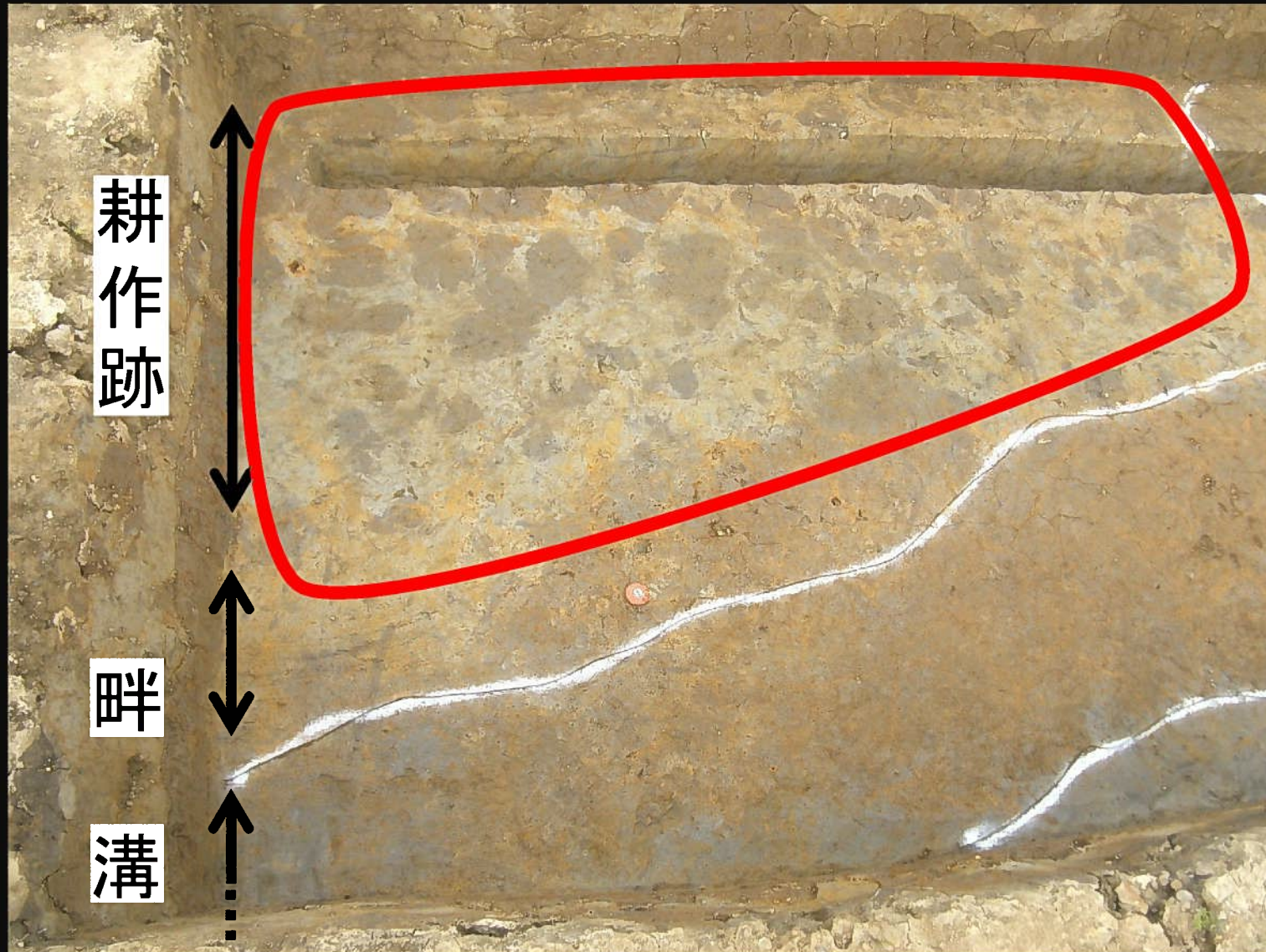
①耕作関連遺構



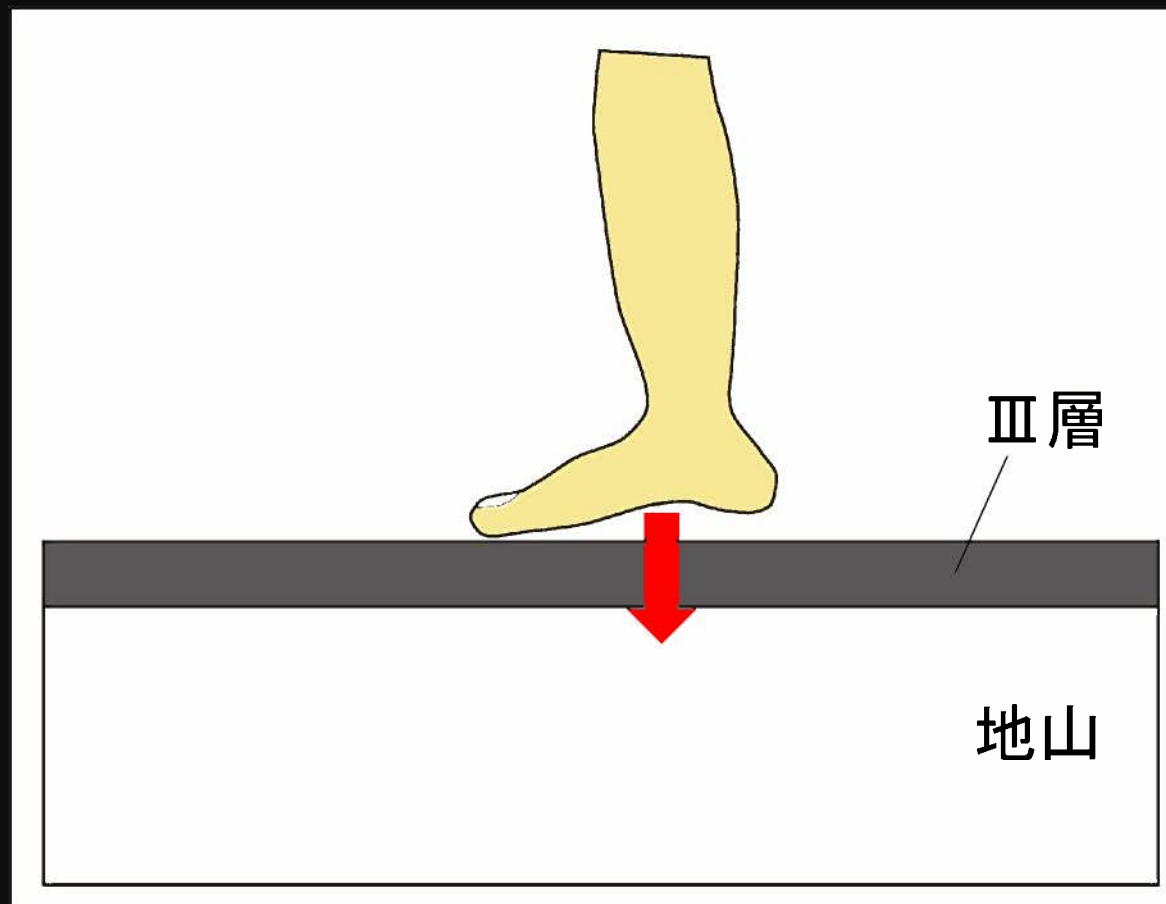


畔状の高まり
が確認できます

①耕作関連遺構

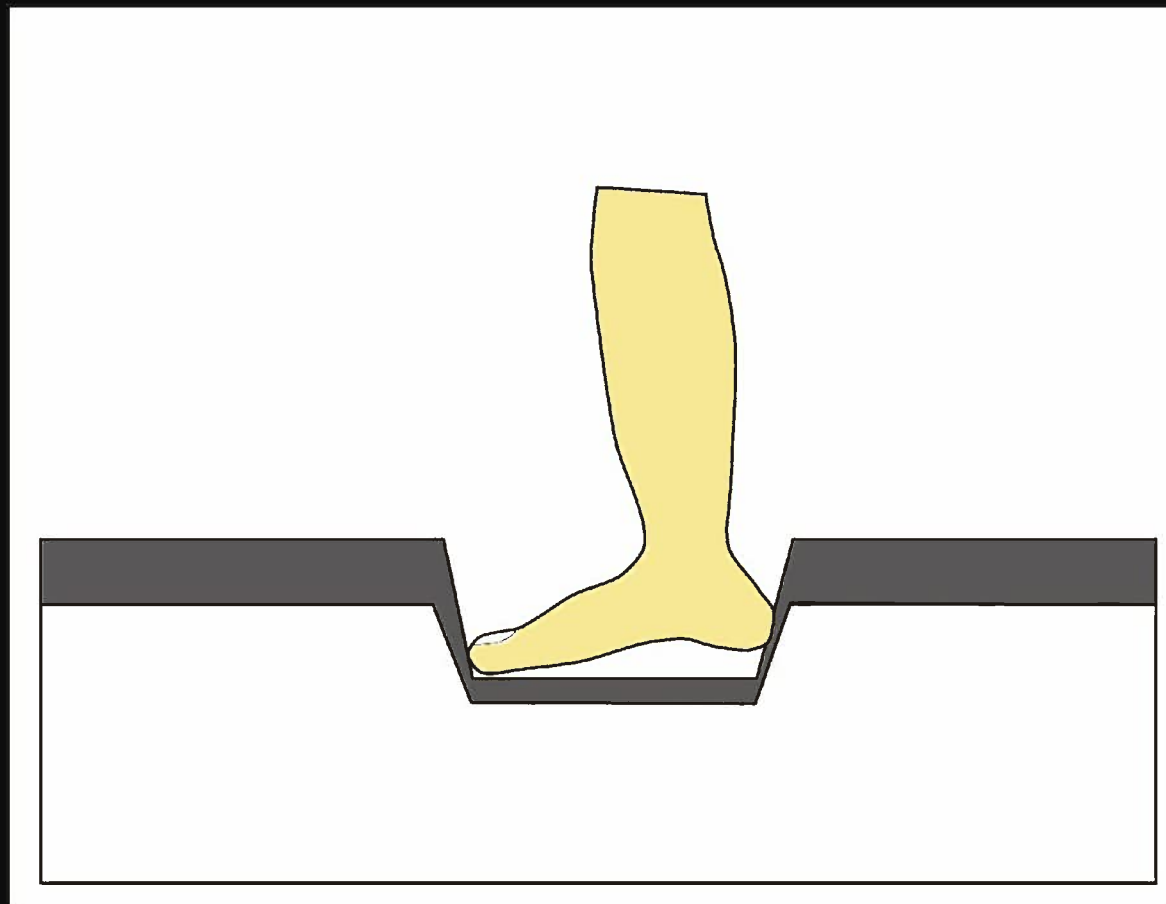


黒い斑状の模様のできかた 想像模式図



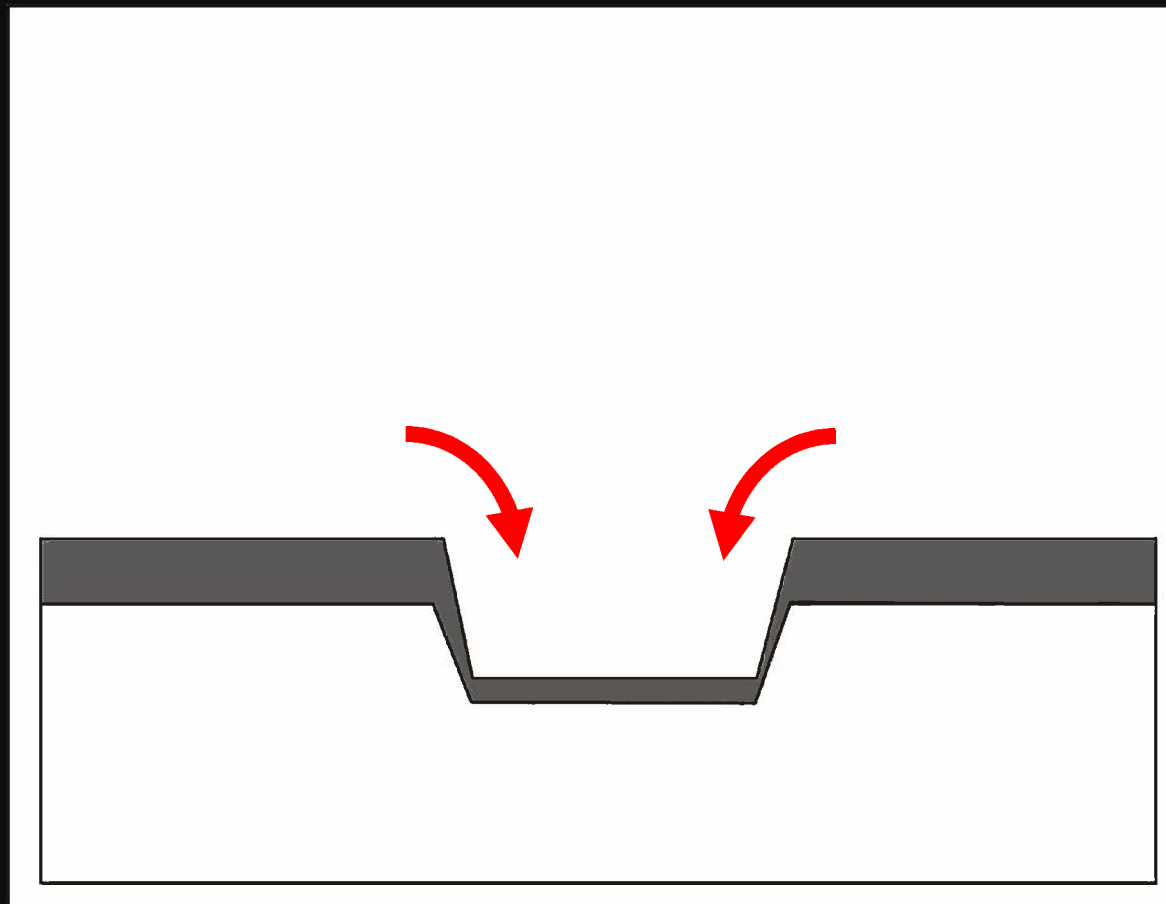
- ①水を含んだ軟らかい地面に
人の足や農耕具などで
上から力が加わります

黒い斑状の模様のできかた 想像模式図



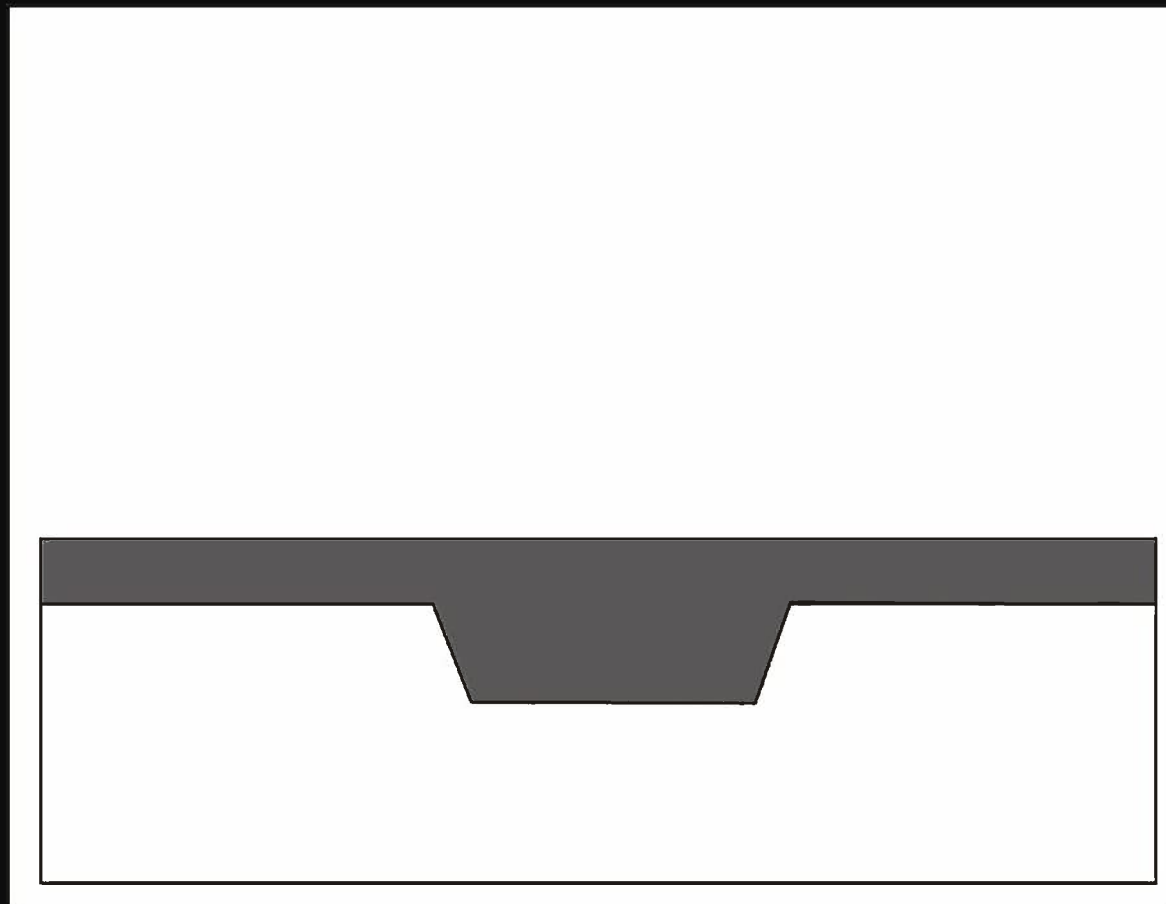
②下の白い地面まで穴が開きます

黒い斑状の模様のできかた 想像模式図



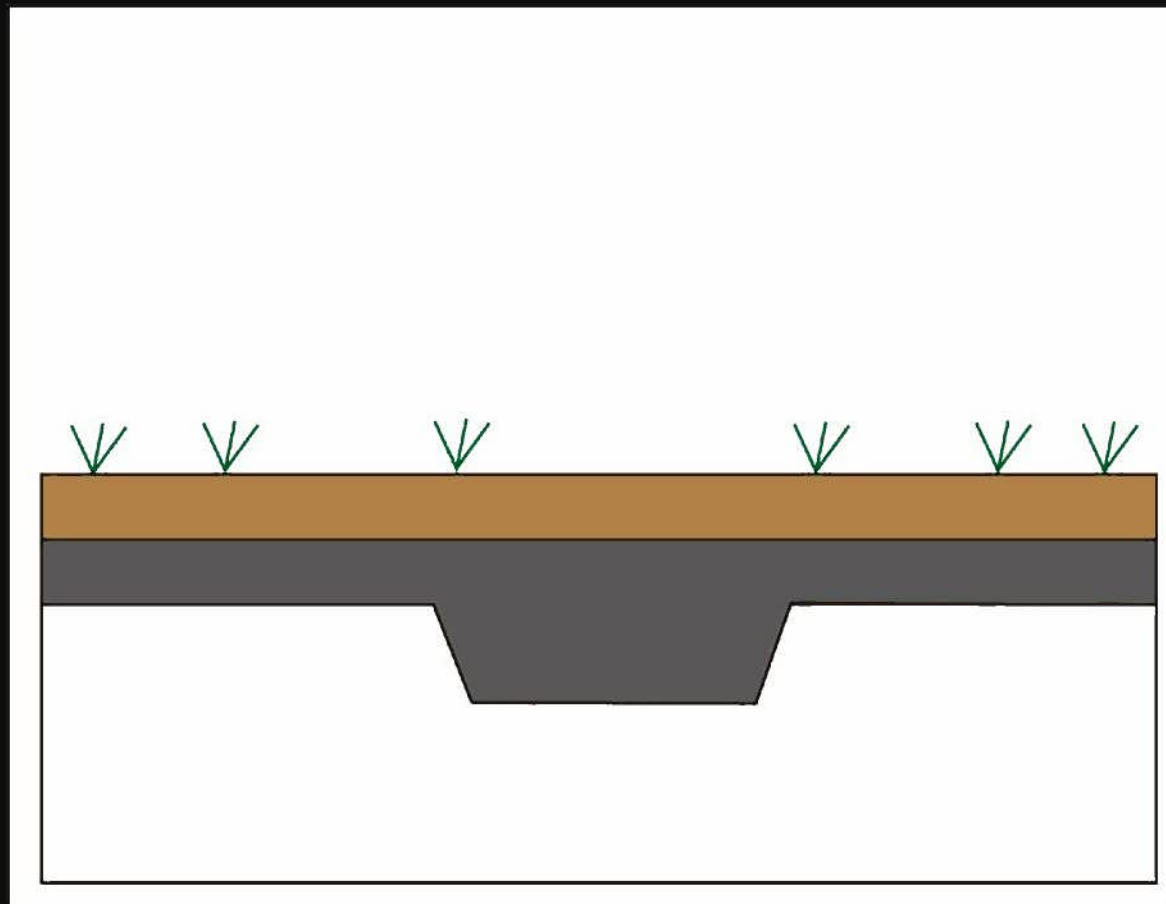
③水の流れなどによって、
周りの黒い土が穴の中に溜まります

黒い斑状の模様のできかた 想像模式図



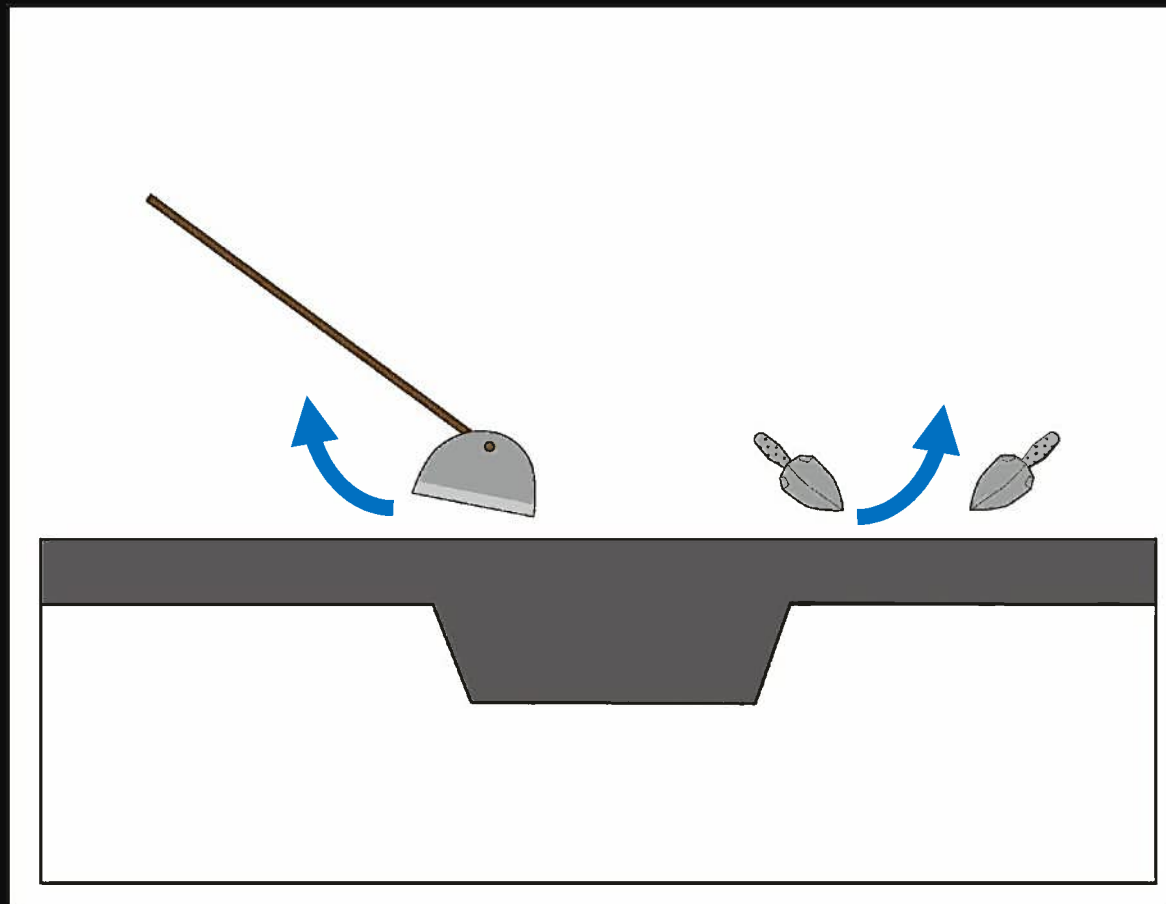
④黒い土に覆われました

黒い斑状の模様のできかた 想像模式図



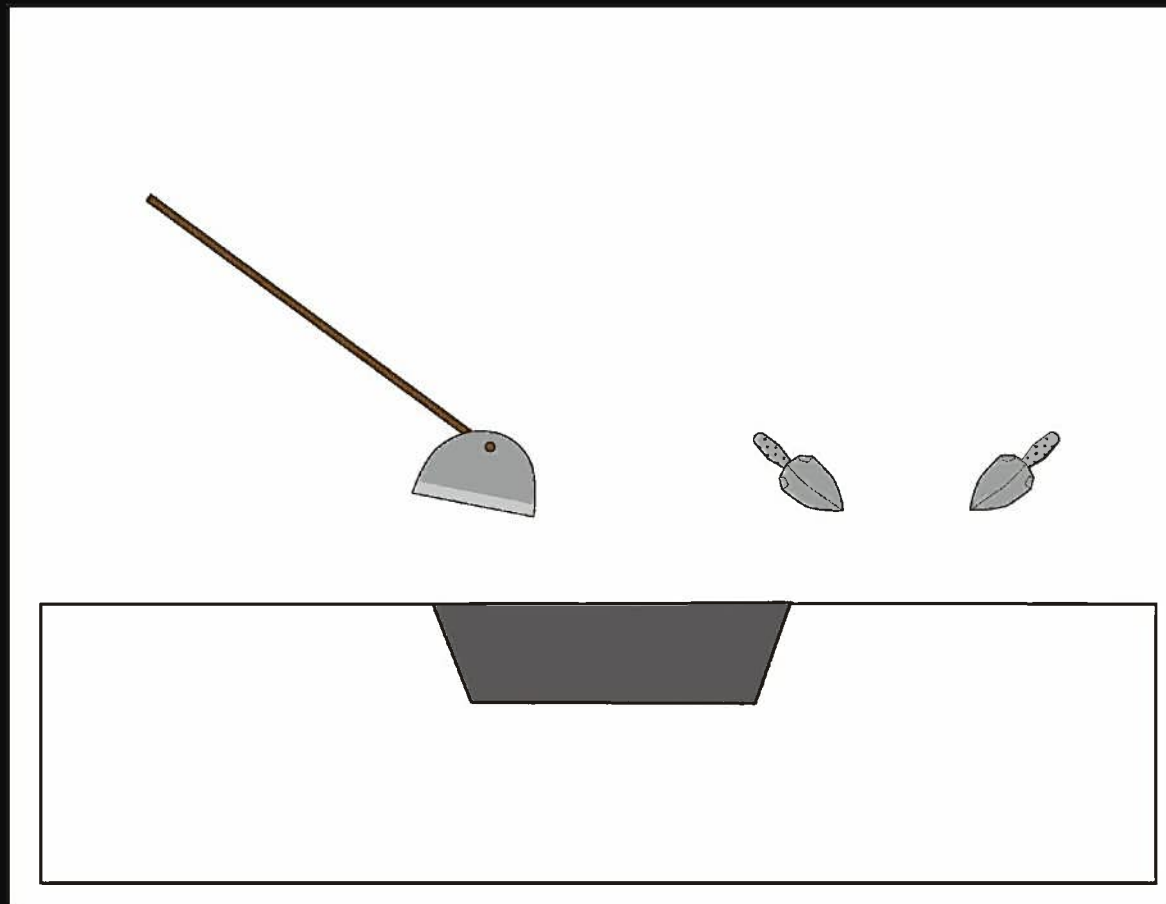
⑤発掘調査のときは新しい土が堆積し、
このような断面になっています

黒い斑状の模様のできかた 想像模式図



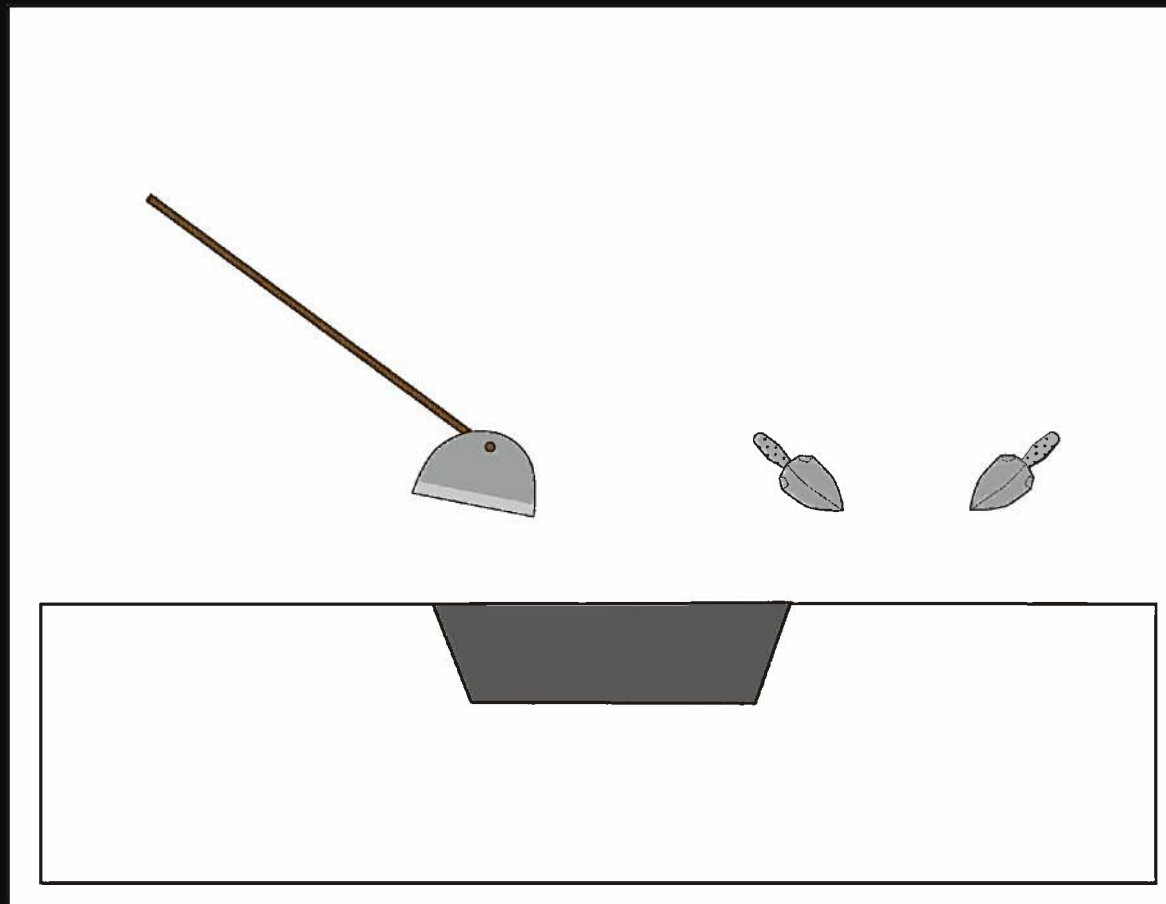
⑥上の新しい地層を取り去り
黒い地層(水田耕作土)を露出させる

黒い斑状の模様のできかた 想像模式図



- ⑦黒い地層(水田耕作土)を発掘し、
白い土(地山)を面的に露出させる

黒い斑状の模様のできかた 想像模式図

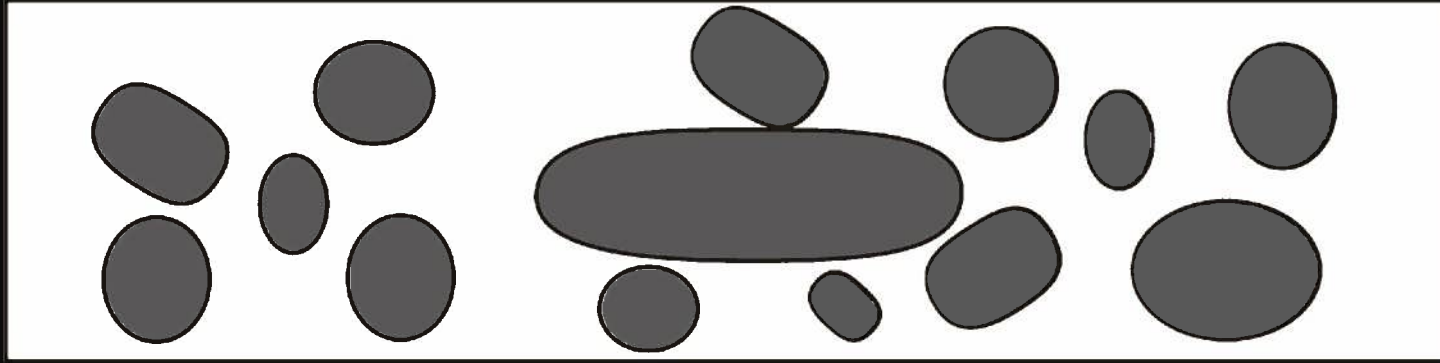


⑧足跡など、深くくぼんだ部分が
黒く残る

黒い斑状の模様のできかた 想像模式図



黒い穴のように見えます



この黒い穴が多数集まると・・・

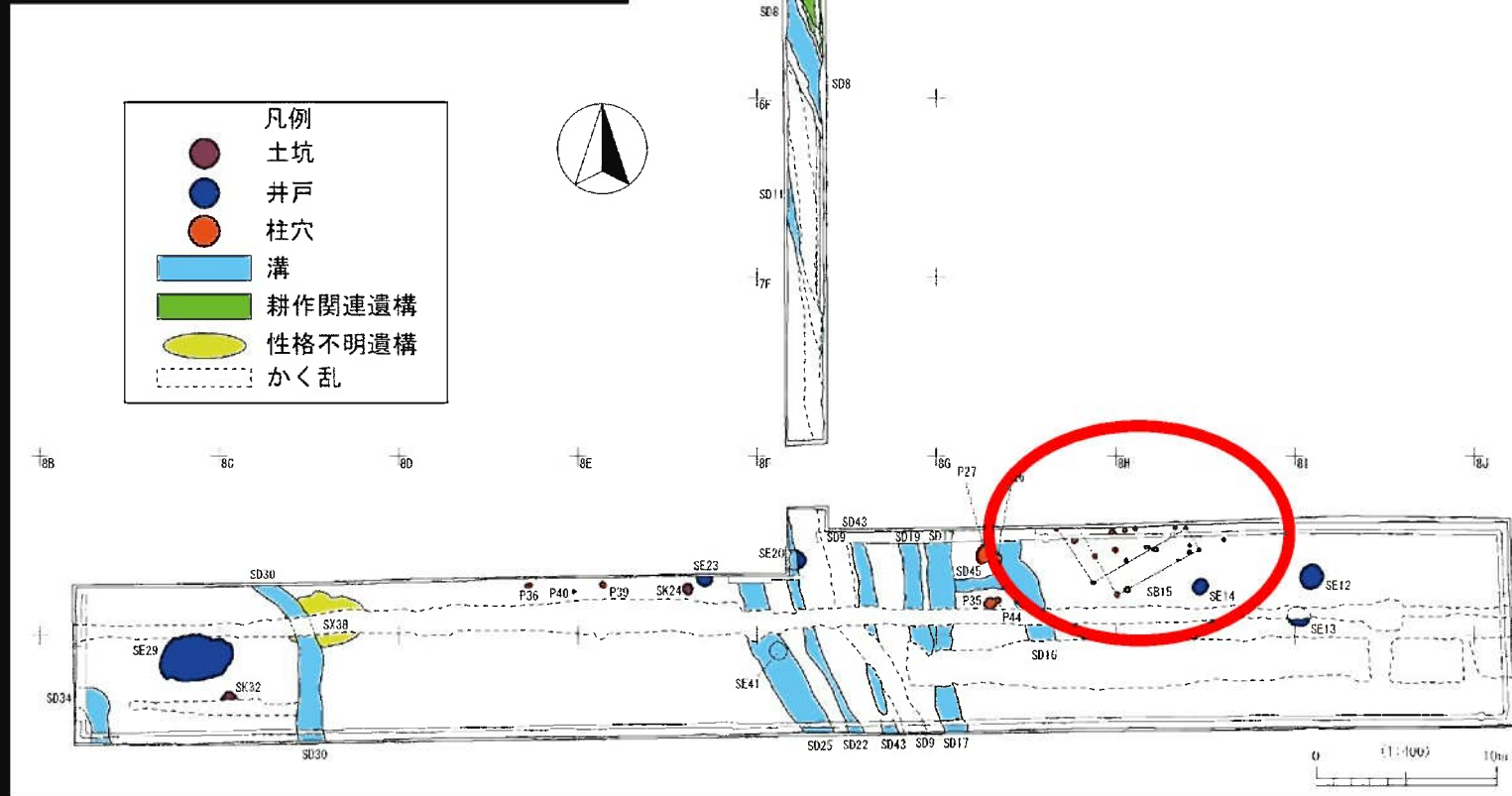


①耕作関連遺構

- ・ 穴が容易にできる、ぬかるんだ地面
- ・ 溝と畦状の高まりが存在している
- ・ 県内の類例との比較
（南区小坂居付遺跡や秋葉区大沢谷内遺跡）

以上から、
寺裏遺跡北側のこうした遺構を
水田跡と考えています。

- ①耕作関連遺構
- ②掘立柱建物
- ③井戸
- ④溝



②掘立柱建物



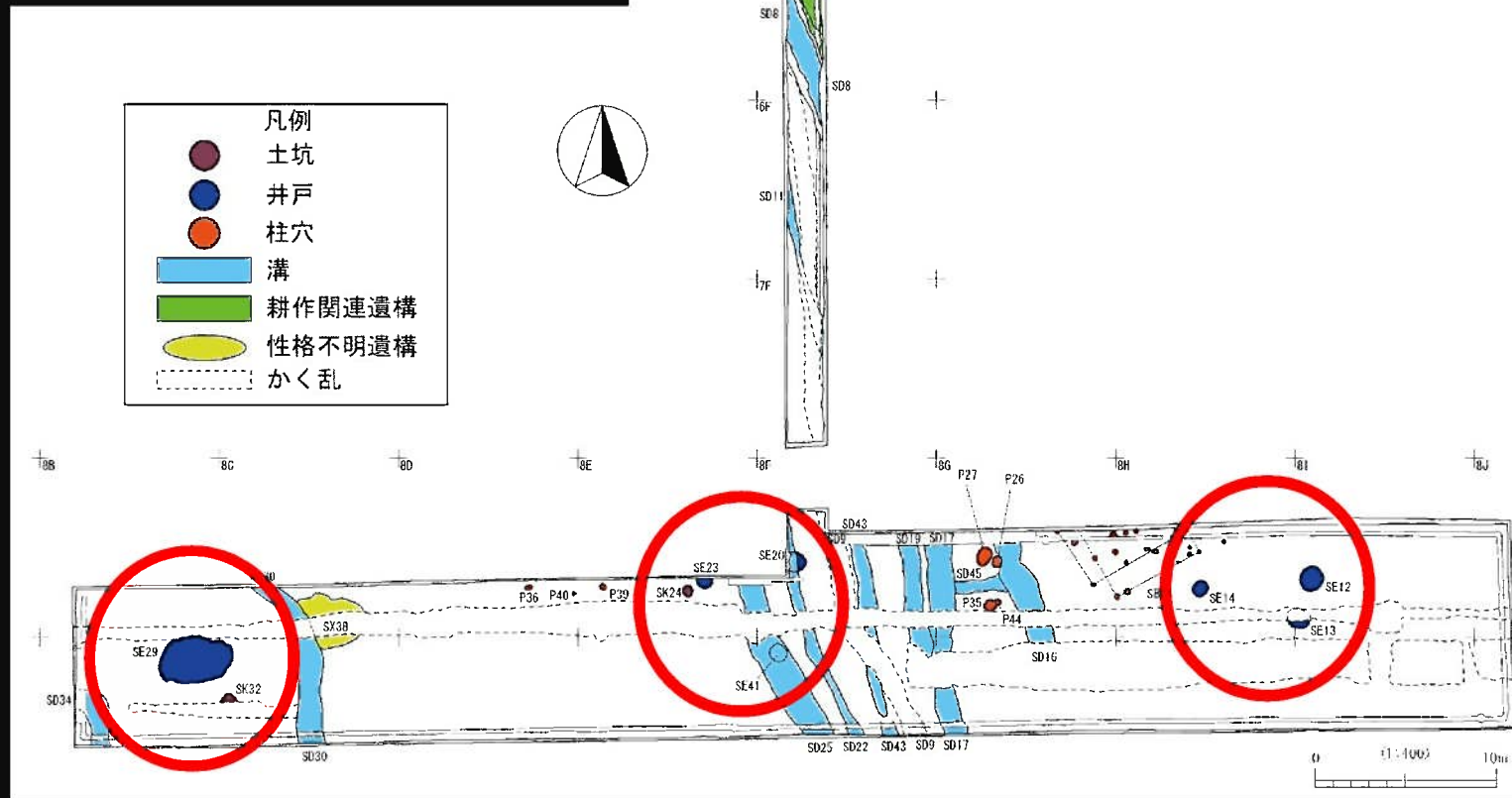
柱の跡と考えられる穴が複数確認されました。

②掘立柱建物



住居かどうかなど、
詳しい用途は分かりません

- ①耕作関連遺構
- ②掘立柱建物
- ③井戸
- ④溝



③井戸



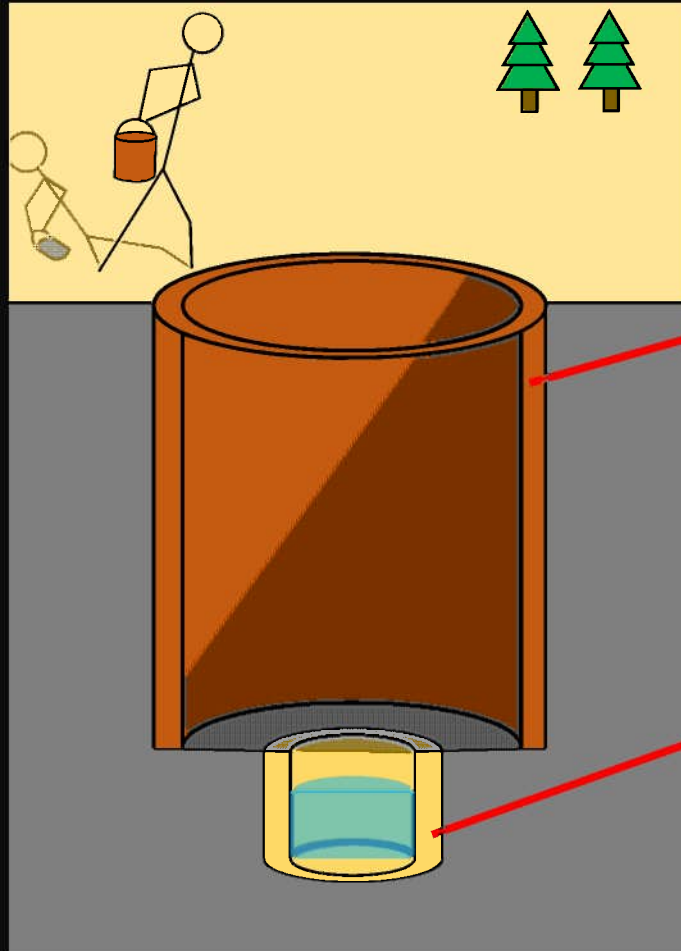
SE12



SE24

井戸は合計 7基 見つかりました

③井戸



この時代の井戸で見られる構造物

井戸側(いどがわ)

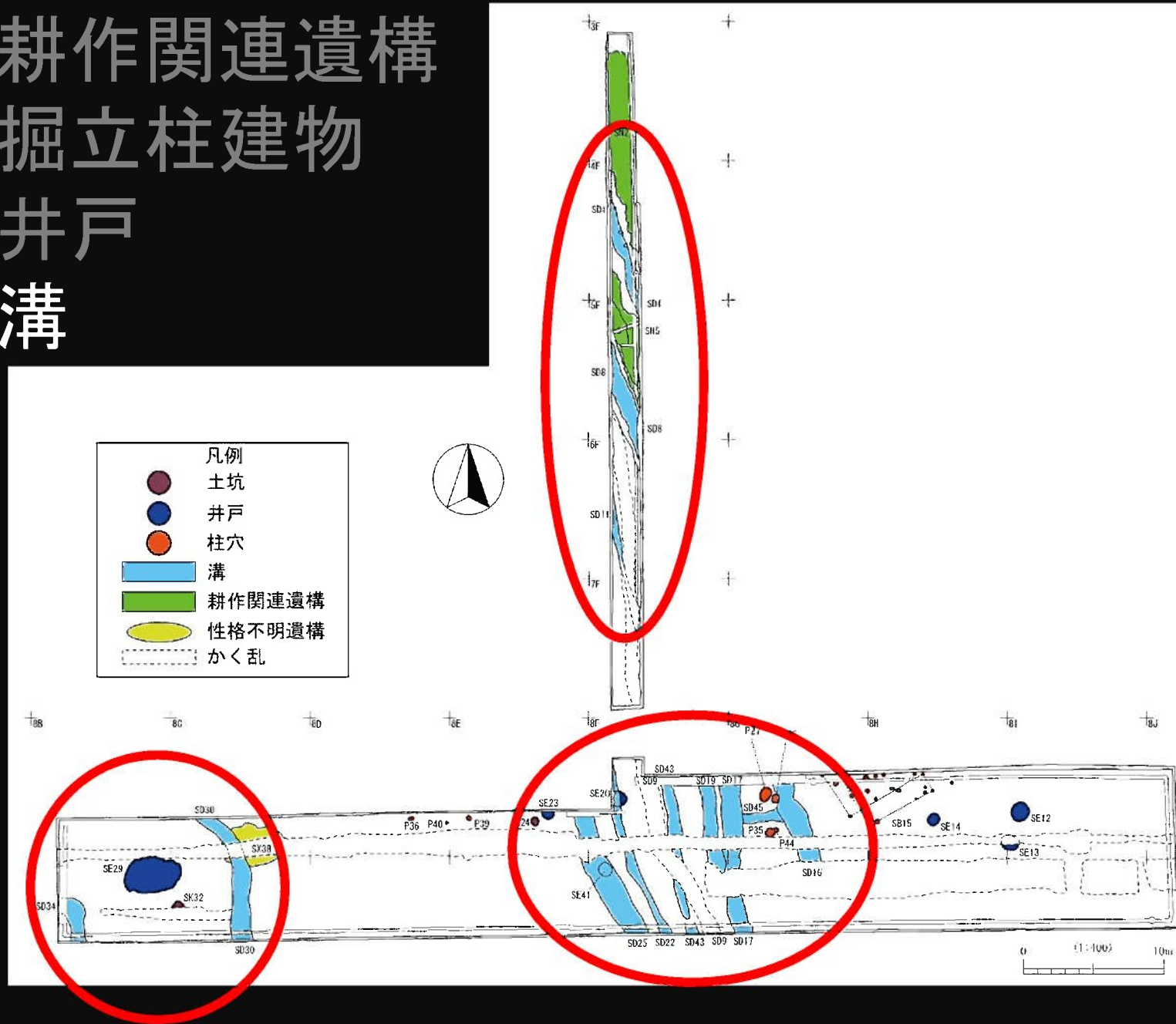
壁が崩壊するのを防ぐ構造物
丸木舟の転用なども存在する

水溜(みずため)

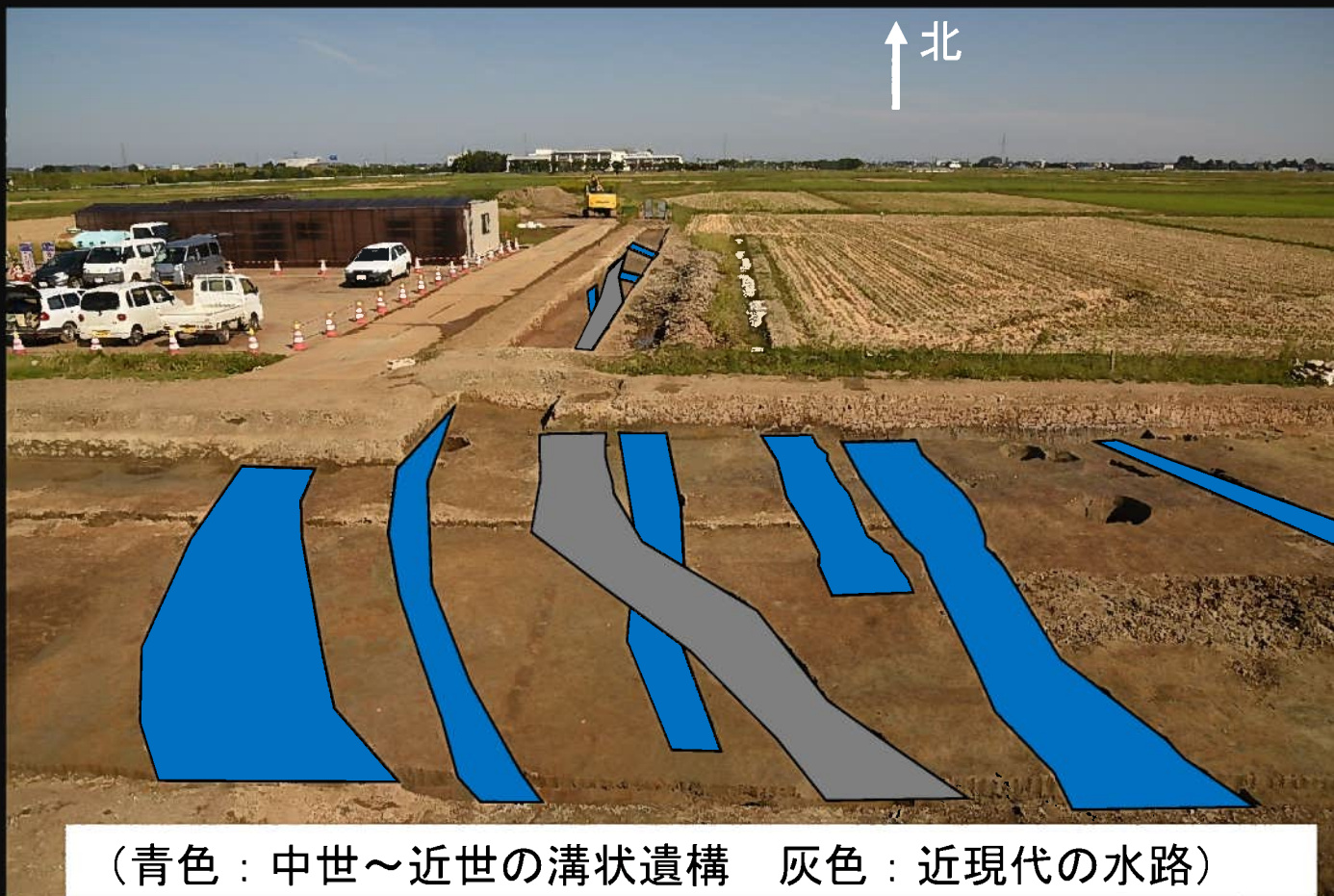
名前の通り水を溜める部分
桶などが転用されることもある

寺裏遺跡では素掘りの井戸のみでした
また、遺物もほとんど出土していません

- ①耕作関連遺構
- ②掘立柱建物
- ③井戸
- ④溝



③溝



南北方向に伸びる溝が複数確認されました
近現代以降の溝も重なっています

③溝



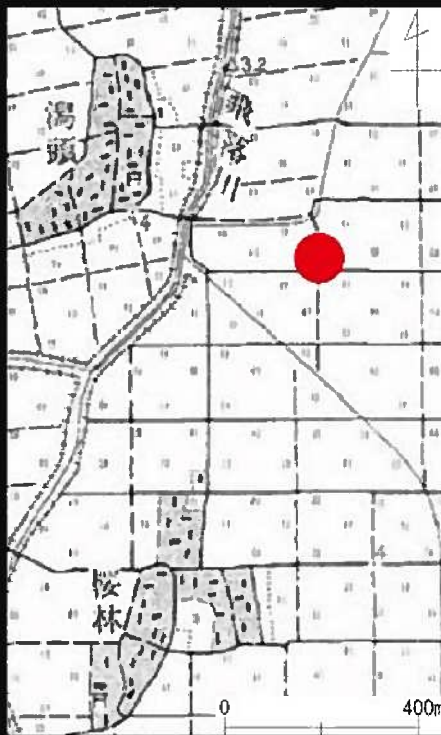
溝から出土した瀬戸焼(小壺)

③溝

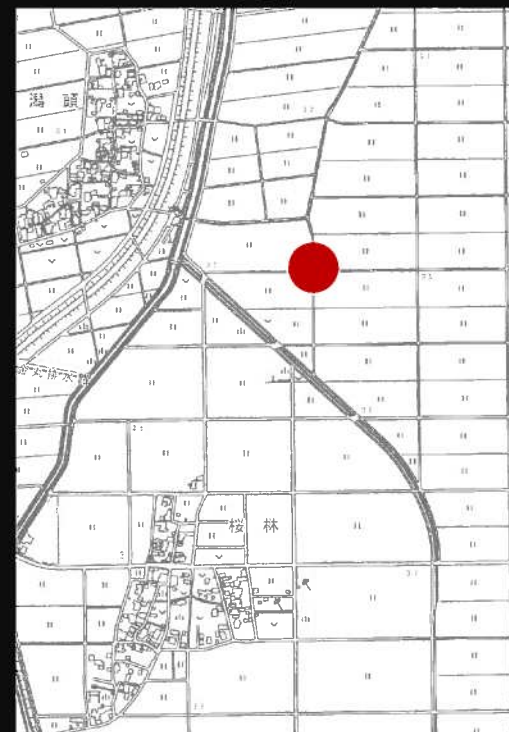
明治44年測図・大正6年修正



昭和45年



現在



明治時代以降も、
区画整理の時に、溝が造られている
→昔から水路を繰り返して造ってきた立地

出土した遺物



珠洲焼・瀬戸焼・唐津焼
といったやきもののほか、
砥石や石臼、木製品が出土しました。

珠洲焼

現在の石川県珠洲市で作られた陶器。
寺裏遺跡では甕・擂鉢・壺が出土。
擂鉢の特徴から、15世紀後半頃と考えられます。



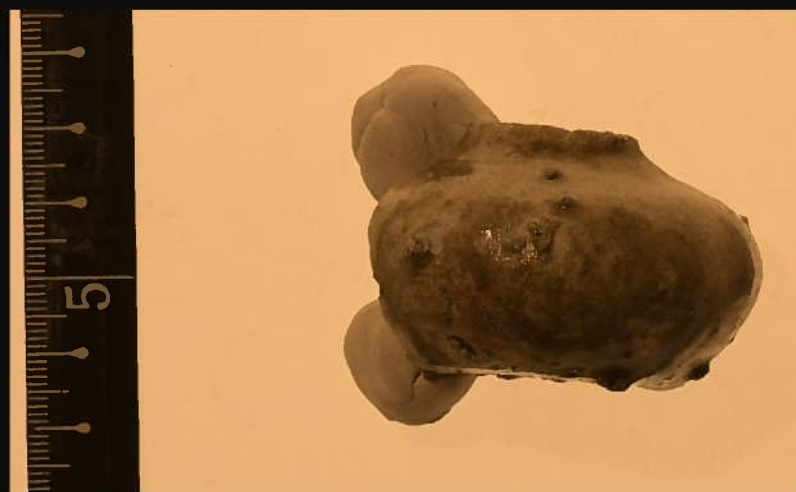
擂鉢

瀬戸焼

愛知県で作られた陶器。
15世紀後半の袴腰型の香炉と、
16世紀前半の小壺が見つかった。



香炉



小壺

唐津焼

佐賀県～長崎県で作られた陶器。
17世紀前半の皿、椀が見つまっている。



皿



椀

遺跡の保存状態が良くなかったため、
遺構の明確な時期や
前後関係は分からなかったものの、
15世紀後半～17世紀前半までの
遺物が出土したため、
断続的に人が生活していたと
考えられます。

掘立柱建物の性格は不明ですが、
井戸が複数見つかっていることから、
周辺に居住域（集落）があったと
考えています。

水田跡もあることから、
小規模な農村と想定しています。

事前調査の結果などからも、
寺裏遺跡の周囲の地山は
自然堤防状に小高くなって、
現在の桜林集落まで延びていた
可能性があります。

現在では周囲と同じような水田が広がるため、昔は潟や沼が広がっていたと誤ってしまいます。ですが、人間の生活していた跡があるため、低湿地ではなかったことが分かります。

寺裏遺跡



かつて人が暮らしていた土地に、
なぜ人が住まなくなってしまったのか・・・
→人間の社会活動や自然環境の
変化などでしょうか？

今回の調査成果が、
この地域の歴史を紐解く一助となれるよう
周囲の遺跡や、文献史料などを参考にして
出土品や記録をまとめていきたいと
考えています。

ご清聴ありがとうございました